

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax.022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、3月まで青森県大湊で外国人司牧に力を入れて働いて下さった佐藤宝倉神父さまの半年間と、3月31日まで復興支援活動を支えて下さったシスターズリレーへのお礼をSDSCの成井神父が書いて下さいました。

陸の孤島も宣教の畑！

大湊教会に赴任したのは、2011年9月21日。まさか半島の首あたりを通過中、周りには人家も乏しく、そこは、まさに地の果て、陸の孤島だと感じました。もともと北海道生まれなので、冬の寒さには平気でしたが、今年の大雪には少々参りました。

大湊教会の在籍信徒数は約92名。主日のミサで出会った信徒は全部で21名でした。今年は大雪と吹雪のために電車が止まり、教会に通ってくることは容易ではありませんでした。今雪が溶け始め、日曜日のミサに出席する人も10名を超えるようになってきました。大湊教会での宣教司牧で、いちばん心がけたのは、次のことです。まず、司教様から派遣されたのですから、大湊の信徒と共に「新しい創造」をどの次元で生きることができるのかと思索しました。物的な支援を呼びかけると、信徒の皆さんは快く協力してくれました。しかし、「新しい創造と自分たち」という観点から、自分たちの信仰を見直すということは初めかなり困難なことに思えました。高齢の信徒の方々が一人一人精いっぱい頑張ってお互いに役割分担をし、必死に「司祭が常駐しない教会」を守り続けてきたことを思った時、私にはこの課題を問いかけることが更に重荷を負わせることになるのではないかと思ったからです。しかし同時に、大湊に住む私たちにとって、震災とは何か、新しい創造を生きるとはどういうことなのかということ語りかける勇気をも願いました。今はそんな私のとり越し苦労もどこか行って、信徒の皆さんは積極的に全仙台教区の教会のために祈っています。今度は主任司祭が常駐すると決まり、信徒の皆さんの顔にも明るさが見えるようになりました。

大湊教会に来た当初、フィリピンの方のために何かできることがないかと考え、祈りました。そして幼稚園の園長先生にフィリピン人のお母さんを紹介していただく決心しました。

幼稚園の運動会の日に私はフィリピン人のお母さんに、イエス様と共に集まりましょうと呼びかけました。「友達の輪」があつという間に広がりました。最初の目標は、フィリピン人とコロンビア人に呼びかけて「クリスマス・ミサ」をすることに設定しました。クリスマスには、17名の外国人移住者とその家族10人が集まりました。そして今年の1月からは、フィリピン人のための毎日曜のミサを開始し、その目標を「復活祭に日本人信徒と一緒にミサをする」ことに設定しました。復活祭の日にはその方々に聖書朗読を担当していただき、英語の聖歌も1曲歌っていただきます。いちばんうれしかったことは、しばらく教会に来ていなかった信徒が教会に来るようになったことと、信仰を持って信者同士助け合っている方々と出会えたことです。大湊の教会は、可能性を持った教会です。事情が許せば、むづは、ずーっと長く住んでいたいところです。また、お邪魔したいと考えていますので、今後ともよろしく願います。最後に大湊教会に派遣して下さった司教様に感謝します。そして、温かく迎えてくれた青森県の司祭団に感謝するとともに、皆様の今後のご健闘をお祈り申し上げます。私は、4月8日、復活祭のミサ後、大湊を出て、マニラのサマル島で、「ろうあ者教育と宣教」に励みます。

佐藤 宝倉



フィリピンの方々と一緒にご復活のお祝い！

日本初の取り組みに感謝！そしてこれからも！

昨年4月1日からずっと紡がれてきたシスターズリレーが、この3月31日に一段落しました。一週間交替でシスターが来て下さるリレーはこれで終了ですが、これまでのリレーとは別の形でベースに入って活動して下さっているシスターが何人もい

らっしゃいます。リレーは確かに、形を変えて続けられています。

「シスターズリレー」という取り組みは、間違いなく日本の教会始まって以来初めての取り組みだと思います。1週間交代で日本中からシスターが代わるがわる被災地に駆けつける、という取り組みによって、何が実現したのでしょうか。修道会同士の新たな協力の形。それぞれの修道会が自分たちのカリスマをより良く生きる。新しい形での社会との交わり。そこに自然に福音宣教が実現する、等々。その意義やもたらした実りを並べだしたらきりがありません。



シスターズリレー最後のたすきをかけて平賀司教と！

リレー最後の週、あるボランティアは「何でシスター来なくなっちゃうの？」と言ったそうです。そしてある最後のシスターは、「ボランティアの皆さんは、疲れているのに活動から帰ってくるといつも『シスター、何か手伝うことある？』って色々手伝ってくれるんですよ」と言っていました。何というのでしょうか、料理がうまいとかへたとか、年齢がどうか、どこの会とか、そういったことに関係なく、「シスターがいる」ということがベースにとってなくてはならないことだったように思うのです。

忙しいスタッフがボランティアとあまりふれあう時間が取れない中、シスターはボランティアをにこやかに迎え、話しかけ、送り出してきました。そして、ボランティアの皆さんは、喜んでシスターの食事作りを手伝ってきました。そうして、シスターもボランティアも、人は変わってもベースとしては変わらず、ずっと共同生活を続けてきました。ベースに来るボランティアの半数以上は信徒ではありませんが、かえって、教会という人の集まりの新しい姿が実現していると実感しています。そんな生活を通して出来てきたベースという共同体の雰囲気は温かく、地域の人々に愛されています。「教会さん」「カリタスさん」「カリスタさん」などと、道ばたで地域の人が声をかけて下さるようになりました。野菜や漬け物を差し入れて下さるようになりました。若いシスターが仮設住宅のお茶っこのに参加した時には、親切にも婚活を進めて下さろうとしたこともありました。ベースでも、地域でも、「共に居る」ことで共同体を生き生きとさせるなんて、まさに共同生活のプロです。一修道者として、心より尊敬申し上げます。

このリレーを紡ぐために、本当に多くの方々が陰となり日向となり、喜んで協力をしてきて下さいました。お客さんではなく、自分たちにとって大切なことだという態度で臨んで下さいました。これまでリレーでシスターが働いて下さったベースとサポセンを代表して、心より感謝申し上げます。皆様の働きの報いは、被災地における復興という実りとして現れてきております。これからも、通常のボランティアとして、または長期のスタッフとしてベースで活動していただくことができますので、どうぞ皆様の都合に合わせてご参加下さい。

仙台教区サポートセンター事務局長 成井大介